

KAWASAKI STEEL GIHO

Vol.25 (1993) No.3

Advanced Utilization of a Flood-Regulating Pond by Constructing a Super Platform
Structure

(Hiroataka Miyoshi)

(Yuji Izumi)

人工地盤の構築による洪水調整池の高度利用*

川崎製鉄技報
25 (1993) 3, 174-178

1. はじめに

近年、洪水被害の激甚化に伴い、洪水調整池の高度利用が求められている。本稿では、人工地盤の構築による洪水調整池の高度利用について、その効果と課題を調査した。調査対象は、東京都荒川区の洪水調整池である。調査期間は、平成4年度から平成5年度までの期間である。

調査の結果、人工地盤の構築による洪水調整池の高度利用は、洪水調整能力を向上させる効果があることがわかった。また、人工地盤の構築による洪水調整池の高度利用は、洪水調整池の土地利用を促進する効果があることがわかった。

しかし、人工地盤の構築による洪水調整池の高度利用には、いくつかの課題がある。まず、人工地盤の構築には、コストがかかるという課題がある。また、人工地盤の構築には、環境への影響があるという課題がある。

以上を踏まえ、人工地盤の構築による洪水調整池の高度利用を推進するためには、コスト削減と環境への影響の軽減が重要である。また、洪水調整池の高度利用を促進するためには、洪水調整池の土地利用を促進する施策が必要である。

本稿では、人工地盤の構築による洪水調整池の高度利用の効果と課題を調査した。調査の結果、人工地盤の構築による洪水調整池の高度利用は、洪水調整能力を向上させる効果があることがわかった。また、人工地盤の構築による洪水調整池の高度利用は、洪水調整池の土地利用を促進する効果があることがわかった。

しかし、人工地盤の構築による洪水調整池の高度利用には、いくつかの課題がある。まず、人工地盤の構築には、コストがかかるという課題がある。また、人工地盤の構築には、環境への影響があるという課題がある。

以上を踏まえ、人工地盤の構築による洪水調整池の高度利用を推進するためには、コスト削減と環境への影響の軽減が重要である。また、洪水調整池の高度利用を促進するためには、洪水調整池の土地利用を促進する施策が必要である。

本稿では、人工地盤の構築による洪水調整池の高度利用の効果と課題を調査した。調査の結果、人工地盤の構築による洪水調整池の高度利用は、洪水調整能力を向上させる効果があることがわかった。また、人工地盤の構築による洪水調整池の高度利用は、洪水調整池の土地利用を促進する効果があることがわかった。

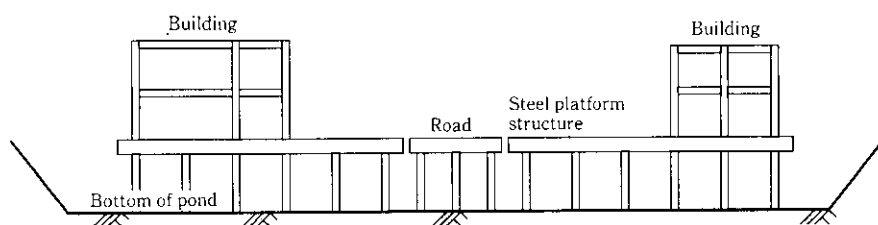


Fig. 2 Section of the platform



(4) 登記・分譲が可能であること

(a) 課題：不動産登記法上での人工地盤の取扱い、分譲する際の権利設定を明確にする必要がある。

(b) 解決策：現行法では上屋のみが登記の対象となる。したが

支持する構造とする。

- (3) 鋼管杭はGL-30~35mの支持層まで貫入させる。その諸元は各テナントの荷重条件によって異なるが、外径はφ508~800mmの範囲である。

(4) 鋼管杭の支持はMFD杭（ポリマエーレン社製鋼管杭）を用

ける自然地盤と構造体（杭）との相互作用が問題となり、通常の建築物とは異なる地震挙動を示すものと考えられ、以下のような手順で解析・検証を行った。

- (1) まず動的地盤調査により得たせん断弾性係数等の諸定数を用

り、上屋よりも人工地盤の設計・施工を先行させねばならないとい

4.2 調整池機能の確保

したうえでこれを分離し、人工地盤単体としての設計を先行して行

4.2.1 STEP工法の採用

